



No.44

げんきカエル



こども病院ニュースレター

Hope lives at Kobe Children's Hospital

病院長 長嶋 達也



新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって平和で実り多い年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年11月28日に井戸知事をお迎えして、新病院の地鎮祭・起工式を無事に執り行い、年明けからいよいよ着工されます。知事からは新病院への期待を込めて「新しい病院整備 ポーアイで こどもの拠点 連携めざして」の歌を贈っていただきました。2015年度内の竣工に向けて急ピッチで建築が進み、夏ごろには新病院の形が立ち現れてきます。現病院を発展させて引き継ぎ、新しい病院に魂を入れるのが私たちの仕事です。身の引き締まる思いがいたします。

より充実した医療を展開するために診療機能の改革や強化を進めます。総合周産期医療センター、小児救急医療センター、小児がん拠点病院に加えて、先天性心疾患に対する胎児診断、手術、思春期・若成人期、成人にいたる連続した医療を地域の中で組織的に提供できる、小児心臓センター(仮)の開設も準備を進めています。神戸大学連携大学院として、あるいは神戸市立医療センター中央市民病院を初めとするメディカルクラスターの様々な先進的医療施設との連携を目指します。より高度で洗練された医療によって、難しい疾患に苦しむ子ども達を救いたいと願っ

ています。

限られた予算で病院を建設し、最新の医療機器と医療情報システムを整備してまいります。一方で、病気に苦しむ子どもと家族を癒す力を持った芸術にかこまれた環境の整備には課題が残ります。こども病院には多くの尊い寄付が寄せられ、グランドピアノを初めてとして病気の子どもと家族を癒す芸術的環境の整備に役立させていただいています。この場をお借りして御礼申し上げます。

兵庫県立こども病院の価値とはなんでしょう？ 救った命の数であり、生み出した希望の総量であり、そしてなにより「最良の手」"best possible hands"にかけがえのない子どもの命をゆだねているという信頼と安心にあると考えます。私たちは自分の手が"best possible hands"であるかどうかを常に自問しつつ、ハイリスクな治療に挑戦することを恐れず、困難の中にあっても可能な限り安全な医療を追求します。「Hope lives here (希望はここにある)」は、北米最大・最古(1855年創立)であるフィラデルフィア小児病院に掲げられたフレーズであり、その志は世界中の小児病院、そして私たちにも共有されています。

「げんきカエル」が皆様のお手元に届くのは、一年で最も寒い季節「大寒」になります。皆様、インフルエンザなどに罹られることなく、元気に過ごされますようお祈りいたします。

がん相談支援センターを開設しました

小児専門看護師 中谷 扶美
ソーシャルワーカー 阿部明日香

当院は2013年2月に「小児がん拠点病院」に指定されました。小児がん拠点病院には、小児がんをもつお子さまとご家族が安心して治療を受けられるように、自施設の診療体制と地域連携の充実をはかることが期待されています。

相談支援体制の充実として、当院または他院でがんと診断されたお子さまとご家族のご不安やお悩みに対応するため、「がん相談支援センター」を設置いたしました。

相談をご希望の方は、直接窓口にお越しいただくか、お電話でお問い合わせください。相談支援センター担当の看護師、医療ソーシャルワーカーがお話を伺います。その後、ご相談内容によっては、医師などの担当者におつなぎします。また、相談支援センターでお話いただいた内容は、ご本人の許可なくほかの医療者に伝えることはありませんのでご安心ください。



1. 相談窓口：本館2階「指導相談・地域医療連携部」内
電話番号：078-732-6961 内線(8520)
2. 相談時間：平日9時～15時
3. 相談内容

- 小児がんに関する情報が欲しい
- 医師に言われたことを詳しく知りたい
- 地域の病院に関する情報が欲しい
- セカンドオピニオンについて知りたい
- これからの子どもとの生活に悩んでいる
- 医療費のことや生活のことが心配
- 気持ちの整理がつかない、話を聞いてほしい など



4. 料金：無料です

小児がんをもつお子さまやご家族が少しでも安心して生活を送ることができよう、相談支援センタースタッフ一同取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



「知って下さい、放射線科医」

放射線科部長 赤坂 好宣

放射線科医の仕事って？

放射線科医ならだれでも親や親戚から「あなたの仕事ってどんなことしてるの？ CT 撮ったりしてるの？」って言われたことがあるでしょう。それぐらい、一般には認知されていない放射線科医の仕事、自分の子供に説明するようにお話ししたいとおもいます。

まず、放射線科医は大きく画像診断医と放射線治療医に分かれます。放射線治療医は様々な放射線や機器を用いて癌をやっつける専門家で、当院でも兵庫県立がんセンターより副島先生に来ていただいて放射線治療を行っています。

放射線科医の 8 割以上は画像診断医で、画像の解釈の専門家です。血管造影を行い同時に出血を止めたり肝臓癌を塞栓してやっつけたり瘤を破裂しないようにするのも(IVR という)含まれます。

当院では、エコー検査や胃・大腸のバリウム検査を行ったり、すべての CT、MRI、核医学検査や依頼された他院からの画像に結果をつけたり、3D-CT を作成したりしています。



図1 読影風景

小児放射線の現状

CT や MRI、レントゲンを撮影するエリアを一般に放射線科といい、大きな病院ならどこにでもあります。それに結果をつける専門家(放射線科医)のいる病院は全体の 2-3 割ほどです。アメリカでは心臓、消化器、呼吸器、小児、骨関節、脳脊髄などそれぞれの専門の画像診断医がいますが、日本ではすべての領域を一人でカバーするのが当たり前で、どの病院の放射線科医も特に検査

件数の少ない“小児”の画像に苦手意識を持っています。

ですから日本では、多くの病院で小児の画像診断は主に小児科医と小児外科医で行われています。当院では小児放射線科医が画像診断を行っているので解釈の誤りはまず起こりませんが、彼らは画像診断の専門家ではないので不安を抱えながら否応なしに診断しているのが現状です。

当院の放射線科医として取り組みたいこと

当院の放射線科には常に 2 名以上の若手小児科医が主にエコー検査の上達目的に画像診断の研修に来ています。彼らはこの病院を出た後、一人で画像診断を行わないといけなくなりますが、目の前の患者様に最良の診療を行うためには正しい目と腕が必要なることを実感し、真剣に取り組んでいます。こういった画像診断に基づいた正しい診療を行う小児科医を一人でも多く育てることも当院の放射線科医の仕事と考えています。

また、県内には塚口病院など小児診療の規模が大きな病院がいくつかあり、そこでも間違いのない画像診断がなされるように向いて診療応援をすることも大切な事と考えています。



図2 エコー室

前列左：私（常勤放射線科医）
前列右：杉岡医師（常勤放射線科医）
後列左：藤本医師（非常勤、小児科医）
後列右：前田医師（小児科志望の尼崎病院研修医）

お花のボランティア

看護部 伊賀ひとみ

「苗を提供します。花を植えませんか？」患者様のご家族にそう声をかけられたのは約11年前でした。それまで、本館前の円形花壇はただの芝生でした。

ご家族は園芸関係のお仕事で、お忙しい仕事の合間に大阪の池田市より、年2回・8年間、トラックで苗を運んでくださいました。お正月には葉牡丹の鉢植えも頂きました。

3年前に花壇は植樹され、上の階から見下ろすと、きれいなハートの形が見えます。

現在は、苗を購入してもらい、有志を募って年に2回、植え替えを継続中。

四季折々とまでいかないのが、残念ですが、少しでもいい状態の花をみなさんに楽しんでもらえればいい!と思っています。作業は10分でも協力していただけると嬉しいです!!



Concept

コンセプト

基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。



基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

新しい年が始まりました。皆様は何か今年の目標など立てられましたか。

「げんきカエル」は今年もこども病院の紹介や新しい情報をお届けしていきたいと思っています。ご意見ご感想などお寄せ下さい。お待ちしております。

編集委員長: 橋本ひとみ
 編集委員: 田中亮二郎 中村淑子 内海祐子
 井手敦子 服部典彦 赤松規子
 山根謙也 北川加奈美

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
 TEL 078-732-6961
 FAX 078-735-0910(総務課)
 FAX 078-732-6980(予約センター)
 URL: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
 E-MAIL: info_kch@hp.pref.hyogo.jp